

記者発表資料

提供年月日 令和2年(2020年)10月28日
部 局 名 文化スポーツ部
所 属 名 文化芸術振興課 振興係
担 当 者 名 千秋、宮嶋
内 線 3345
電 話 077-528-3344
E - m a i l sc0001@pref.shiga.lg.jp

令和2年度 滋賀県文化賞等受賞者の決定について

昭和51年から始まり、今回で45回目を迎える滋賀県文化賞等の表彰について、受賞者が以下のとおり決定しました。

1 令和2年度 受賞者（別添詳細）

◇文化賞	1団体
◇文化功労賞	2名、2団体
◇文化奨励賞	2名
◇次世代文化賞	1名
計	5名、3団体

滋賀県文化賞贈呈式



2 滋賀県文化賞等

【目的】

県民の文化の向上発展に寄与し、その功績が顕著なものを顕彰することを目的とする。

【対象者】

個人：県内に住所、勤務先を有する者または本県出身者。

本県の文化の紹介または振興に顕著な功績のある県外在住者。

団体：県内に事務所または活動の本拠地を置き、安定的に活動していること。

【賞の区分と要件】

◇文化賞

多年（おおむね20年）にわたり優秀な作品を発表するなど文化活動において特に優れた業績をあげた個人または団体

◇文化功労賞

多年（おおむね20年）にわたり文化活動の育成、普及等を通じて県民文化の振興に特に顕著な功績のあった個人または団体

◇文化奨励賞

多年（おおむね10年）にわたり優秀な作品を発表するなど、文化活動において優れた業績をあげ、その活動において将来を期待される個人または団体

◇次世代文化賞

国内外の水準の高いコンクールや展覧会等で最優秀賞等の成績を修めるもしくはその活動において将来を一層期待される個人または団体（おおむね19歳以上30歳以下の者）

【対象部門】

- ・芸術文化部門：美術・陶芸・工芸・文芸文学・音楽・演劇・舞踊・メディア芸術等
- ・郷土文化部門：民俗・郷土史・郷土芸能・文化財等
- ・その他の部門：学術等

令和2年度 滋賀県文化賞等受賞者

◇滋賀県文化賞

(団体名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)
とんだにんぎょうきょうゆうだん 富田人形共遊団	長浜市	41年	郷土文化（伝統芸能）

◇滋賀県文化功労賞

(氏 名・団体名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)
しが しょくじぶんかけんきゅうかい 滋賀の食事文化研究会	大津市	29年	郷土文化（郷土食） 学 術
なかい けんしょう 中井 憲照	大津市	81歳	芸術文化（音楽）
にしかわ たかのり 西川 貴教	東京都	50歳	芸術文化（音楽）
にほんふえのろさがかい 日本フェノロサ学会	大津市	40年	学 術

◇滋賀県文化奨励賞

(氏 名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)
なかじ ともえ 中路 友恵	大津市	45歳	芸術文化（音楽）
なぎら ゆう 凧良 ゆう	京都府	47歳	芸術文化（文芸文学）

◇滋賀県次世代文化賞

(氏 名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)
かたやま ゆきひろ 片山 幸宏	草津市	29歳	芸術文化（大衆芸能）

令和2年度 滋賀県文化賞等受賞者経歴

【 文 化 賞 】

富田人形共遊団（とんだにんぎょうきょうゆうだん） 昭和54年設立 長浜市

郷土文化（伝統芸能）

長浜市富田町に江戸時代から伝わる歴史の長い伝統芸能であり、江戸時代から明治にかけては、指導者を招き、人形座としての基礎を固めて公演活動を行っていた。その後は、一時兼業農家の増加や人形遣いの高齢化などにより存続が危ぶまれたが、昭和54年に「富田人形共遊団」として再発足し、活動を続けている。市内外より人形を愛好するメンバーが集まり、日々の練習に励み、公演等の活動を積極的に行うことで、人形浄瑠璃の保存と継承に努め、また、人形浄瑠璃を通して地域の小中学生や地域住民との文化交流・後継者育成を行っている。ニュージーランド公演をはじめとする海外公演も行い、平成30年までに12回の海外公演を実施した。また、海外からの留学生を迎えて人形浄瑠璃の技量や日本文化を伝授するサマープログラムを平成14年から計16回開催し、延べ23か国、311人の学生を迎えるなど伝統芸能の紹介にも貢献している。

【 文 化 功 労 賞 】

滋賀の食事文化研究会（しがのしょくじぶんかけんきゅうかい）

平成3年設立 大津市

郷土文化（郷土食）・学術

滋賀の食事文化に関心を持つ人々が、伝統的な地域の食材と食技術から学び、人々の知恵や技が蓄積された伝統的な食文化を記録、再現して、若い世代に継承していくことを目的として平成3年に設立された。滋賀の食に関心のある人なら誰でも入会でき、会員は、研究者だけでなく、女性が会員の3分の2というところも特徴である。活動としては、2か月に1回のペースで、現地での学習を基本とした研究会や、その成果をまとめた会報や年報を作成し、地域の食事文化の継承に努めている。小・中・高校への出前講座やマスコミでの広報など、次世代へ伝える活動や食に係る県政への協力など積極的な活動を行っている。

中井 憲照（なかい けんしょう） 昭和14年生 大津市

芸術文化（音楽）

昭和46年、大津児童合唱団（当時はNHK大津放送児童合唱団）の第2代目指揮者に就任して以来、48年間継続して指導し、県下児童合唱の質の向上に尽力した。また、同合唱団は、びわ湖ホール設立以来20年以上、同ホールで演奏されるオペラの児童合唱に出演し、毎年定期演奏会や国内外の合唱団との交歓演奏会を行うほか、海外の姉妹都市での親善演奏会を行うなど、音楽的に高いレベルを長年にわたり維持している。大津児童合唱団を卒団した人の中にはプロの演奏家や音楽の指導者として活躍している人も多く、県内音楽レベルの向上と人材育成の両面において成果を上げた。

現在、滋賀県少年少女合唱連盟理事長、大津市合唱連盟理事長を務めている。

西川 貴教（にしかわ たかのり） 昭和45年生 東京都

芸術文化（音楽）

平成8年、ソロプロジェクト「T.M.Revolution」としてメジャーデビュー。その後、大ヒット曲を連発し、オリコンシングルチャート1位の獲得やミリオンセラーも記録しており、日本の音楽界をけん引してきた。NHK紅白歌合戦にも5回出場しており、国民的な支持を得ている。その活躍は、音楽だけにとどまらず、バラエティ番組や舞台、映画、声優、CMなど幅広い分野で活躍している。平成20年には初代滋賀ふるさと観光大使に任命され、平成21年からは、県内初の大型野外ロックフェス「イナズマロック フェス」を草津市烏丸半島で毎年開催しており、その収益金の一部を琵琶湖の総合保全のために寄附するなど社会貢献活動も行っている。

日本フェノロサ学会（にほんふえのろさがっかい） 昭和55年設立 大津市

学術

昭和53年にアーネスト・F・フェノロサ夫人令孫を米国より大津市に招聘し、記念展・講演会を開催した。その際に「フェノロサ学会」設立構想が話題となり、昭和55年に「日本フェノロサ学会」が設立された。以後、約40年間にわたり、毎年研究発表大会を開催するとともに学会誌「LOTUS」および会報を定期的に刊行している。また、大津市立図書館の協力の下「フェノロサ関係文献コーナー」を開架し、近代美術に関する文献等の寄贈を継続している。近年は、大津市立歴史博物館との連携事業や企画展に全面的に協力しており、フェノロサや岡倉天心を中心とした日本近代美術史研究に貢献するとともに、県民に対しても研究成果を公開するなど活動を継続してきた。

【 文化奨励賞 】

中路 友恵（なかじ ともえ） 昭和49年生 大津市

芸術文化（音楽）

フリーランスのマリンバ・打楽器奏者として関西を中心に演奏活動を展開し、現在は石山高校音楽科、相愛大学音楽学部非常勤講師として後進の育成にも力を注いでいる。また、吹奏楽指導者としても指導校を全国大会へ導くなど長年の実績が高く評価されている。福祉の分野において16年にわたり県立近江学園などで障害のある子ども達への音楽ワークショップを実施し、様々な音楽祭の企画や指導にも携わっている。近年は県内小学校、養護学校でのアウトリーチ活動、不登校など心に課題を抱えた子ども達に寄り添った音楽プログラムの支援も行っている。

凧良 ゆう（なぎら ゆう） 昭和48年生 京都府

芸術文化（文芸文学）

平成19年に長編小説『花嫁はマリッジブルー』で本格的に小説家デビュー。巧みな人物造形や展開の妙、そして心の動きを描く丁寧な筆致が印象的な実力派である。令和2年に一般文芸では初の単行本刊行作品となった『流浪の月』が第17回本屋大賞を受賞し、累計発行部数が37万部を超え、ベストセラーとなっている。新聞などでは、「小道具の使い方が印象であり、繊細な心理描写も良く、心に残るフレーズも満載で新感覚の作家の登場」と評されるなどその作風は高い評価を得ており、今後も活躍を期待される作家である。

【次世代文化賞】

片山 幸宏（かたやま ゆきひろ） 平成3年生 草津市

芸術文化（大衆芸能）

大学在学中に本格的にマジックを学び始める。平成28年に滋賀県に移住してからは、平成30年にマジックオリンピックで第3位を獲得。令和元年には、スイスマジック大会で第1位を獲得、そして今年度には世界最大のマジックオーディション番組「Fool Us」で日本人初受賞するなどその活動は世界的に認められている。また、びわ湖クラシック音楽祭や湖北みみの里でのサイレントマジックショーなど世界で活動する傍ら地域貢献にも力を入れており、滋賀を活動の拠点として次世代を担う人材としてその活動が顕著である。